C—5 父親の養育行動・態度に関する一考察

武庫川女大家政　○芦田裕子　前田實子

目的　これまで親の養育行動や態度はほとんど母親を中心に考察されてきた。しかし子どもの人格形成に果す父親の役割は母親と同様大切であることから，本研究は父親の養育行動，態度について，(1)各年代間の相違，(2)各養育行動型による養育態度の相違を確かめようとした。

方法　養育行動に関する質問13項目，養育態度の質問14項目からなる質問紙法による調査法を用いた。父親を年令により30代，40代，50代以上の三つの年代に分類し，養育行動，態度に関する質問の回答を各問ごとに集計し，比較した。このとき父親の養育行動を次の四つの型に分類した。(A)受容型自立，(B)支配型厳格，(C)服従型依存，(D)放任。なお上記のどの型にも属さないもので子どもに対する態度が終始一貫せず，時によりさまざまな躾方をする躾混乱型を不定型とみなした。対象は東京都渋谷区の私立A学院初等部1年生，中等部1年生，高等部3年生の父親，687名。

結果　(1)養育行動の型は各年代とも受容型自立が最も多く，若い年代ほど厳しい行動型の傾向を示している。(2)年代間の有意差が認められた項目は13問中3問で，行動型の年代傾向は認められない。(3)養育行動型別の養育態度については受容型自立と放任型の父親は躾を母親に任せており，母親は躾熱心で父親より厳しいという家庭が多い。(4)受容型自立の父親の子ども約½に神経症的悪癖がみられた。(5)一般に父親の躾方が自分の受けたそれより厳しいか，同程度のものはわが子の躾に対する満足度が高い。(6)社会的規律に対し受容型自立の躾を行なっている父親が圧倒的だが実効性を伴っていないように思われる。